

2021 年度事業報告

1. 2021 年度 重点事項と評価

(1) 没後 90 年となる今もなお、必要とされ続けている渋沢栄一の精神を広く国民に発信する。

コロナ禍においても、渋沢栄一への関心の高まりを受け、渋沢史料館については感染防止対策に努めながら開館を行った。また、渋沢栄一と「フィランソロピー」シリーズの書籍刊行を行ったり、オンラインイベントやデジタルアーカイブ関連事業についても積極的に進めたりした。外部からの講演・執筆依頼に対応するとともに、教育現場へのアプローチも行うなど、幅広い情報発信を行った。

(2) これまで培ってきた新型コロナウイルス感染防止対策の経験を活かしながら、生まれ変わった常設展示の普及を行い、無理のない「地に足の着いた」事業を行う。

感染状況を考慮しつつ、開館日や開館時間を拡大し、2022 年 1 月からは事前予約制を解除して在館者数が密にならないように管理し、より多くの来館者を迎えられるように努めた。常設展示においてはデジタル・コンテンツの運用を開始し、企画展も開催した。

(3) 働き方改革を重点的に推進し、これからの社会に対応しながら財団運営を行っていく。

職員等の健康の保持・増進と日常業務における生産性の向上を進め、時間外勤務の削減、総実労働時間の短縮をできるだけはかることに努めた。オンラインによる勤怠管理システムやリモートワーク用ソフトの導入により、コロナ禍における多様な勤務形態に柔軟に対応することが可能となった。

2. 研究企画・史料館グループ

(1) 事業内容（研究センター）

イ. 寄付講座

(イ) 華中師範大学寄附講座：

同大学とは渋沢栄一研究の協力関係にあり、渋沢栄一関連書籍の寄贈を行う予定であったが、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により郵送できなかった。

ロ. プロジェクト研究成果の出版

(イ) 比較思想プロジェクト：

編集出版にあたっての取り決めにより、成果物 Melissa Williamus 『Deparochializing Political Theory』（ケンブリッジ大学出版、2020年3月刊行）をプロジェクト成果物として買い取る予定であったが、2021年度はできず、2022年度に買い取る予定。

【重点事項】

(ロ) フィランソロピーシリーズの出版：

渋沢栄一と「フィランソロピー」シリーズ全8巻のうち、既刊の第1、2、5、6巻に続き、第7巻 山口輝臣編著『渋沢栄一はなぜ「宗教」を支援したのか』（ミネルヴァ書房）を2022年3月に刊行し、2022年度予定の第3巻の編集に着手した。第4巻、第8巻も2023年度以降の刊行予定で進めている。

(ハ) 産業技術導入における実業家のリーダーシップ：

過年度、国内外の近代産業遺産を見学し、技術移転について研究、その成果として David B. Sicilia and David G. Wittner 編著『Strands of Modernization: The Circulation of Technology and Business Practices in East Asia, 1850–1920』（トロント大学出版）を2021年11月に刊行した。

ハ. 渋沢栄一研究の促進

(イ) 論語とそろばんセミナー：

A. セミナーの開催

『「論語とそろばん」セミナー2022』を、前回に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン配信（録画配信）で開催。

配信期間：2022年3月1日～3月31日

申込者数：330名（前年：258名、前年比27%増）

プログラム：井上潤館長、守屋淳氏による講演と、株式会社ユーグレナ代表取締役社長 出雲充氏と守屋淳氏のインタビュー

『論語と算盤』に象徴される渋沢栄一思想と行動から、現代の日本社会、企業経営、リーダーシップのあり方を多角的にアプローチする内容にて、オンライン配信のメリットから遠方の地域や海外からの参加者も募ることができた。また、アンケートでは、今後のテーマとして、渋沢栄一の福祉活動や海外の視点から見た渋沢栄一、「論語とそろばん」を企業経営に生かしている経営者のインタビューの継続など、様々な意見が寄せられた。

B. 読書会の開催

第9期 =2020年9月～2021年7月 全11回をオンライン形式で開催、修了者22名。

第10期 =2021年9月～2022年7月 全11回もオンライン形式で開催、参加者46名でスタート。

C. 経営者インタビューの実施

株式会社 ユーグレナ 代表取締役社長 出雲充氏

(ロ) 合本主義：

第2フェーズとして、トルコに続き、東南アジアについて、2018年度に実施したワークショップやフィールドワークを踏まえて、執筆の最終確認および出版社と刊行に向け協議。

(ハ) 儒商会議：

2013年より北京大学世界倫理中心が主となりシンポジウム「儒商対話」が行われてきたが、2020年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響により開催見送り。

(二) 協賛・助成・支援事業

A. 「第38回渋沢・クロード賞」協賛

日本側受賞者：中村督氏（本賞）と淵田仁氏（奨励賞）

受賞記念講演会を2021年7月2日にオンラインで実施。

仏国側受賞者：セザール・カステルビ氏とエドゥアール・レリッソン氏

授賞式を2021年12月3日にパリ日本文化会館にて実施

B. 助成事業は2020年度より当面の間、停止

C. 経営史学会紀要の英語版 Japan Research in Business History の出版支援。なお、2019年度より紙媒体からオンライン・ジャーナルへと移行。

【重点事項】

二. 「論語とそろばん」に関する新規プロジェクト準備に着手する。

新型コロナウイルス感染症の影響や渋沢栄一への社会的関心の高まりによって生じた追加の業務や対応により、着手に至らなかった。

(2) 事業内容 (史料館)

【重点事項】

コロナ禍で、従来の入館者数や収益は見込めないと思われる。しかし、2021 年 4 月からは、この状況に屈することなく成長しつづける常設展示の第 2 弾として、デジタル・コンテンツの運用を実施していく。また、大河ドラマや新札肖像などで、渋沢栄一に興味関心が高まるなかで、当館にしかできない博物館活動を実施していく。

2021 年度も新型コロナウイルス感染症の影響のため入館者数及び収益は減少するも、大河ドラマ効果で渋沢栄一への関心が高まる中、開館日や開館時間を拡大し、さらに 2022 年 1 月からは事前予約制を解除して在館者数を密にならない範囲で管理し、より多くの来館者を迎えらるよう努力した。また、デジタル・コンテンツの運用を開始したり、企画展を開催したりした。

イ. 資料整備事業

(イ) 本館の収蔵庫・書庫、展示室等の除塵・清掃：

資料の燻蒸 (2021 年 4 月 12 日～16 日)

除塵・防黴 (収蔵庫 A・書庫 2021 年 9 月 15 日、16 日、21 日、22 日)

館内環境調査 (本館・青淵文庫 2021 年 7 月 16 日～8 月 20 日)

(ロ) 資料の整理・保存の観点から必要となる備品、用品等の購入：

写真保存ファイル、テックリンウェット (文化財・資料清掃専門の厚手のウェットシート)、軸巻き上げ、軸受け (長い掛軸を安全に展示するための器具) 等を購入

(ハ) 資料のマイクロフィルム撮影や複製の製作などの整備：

資料撮影 常設展示中の資料を撮影

資料複製 P. ブリュナー雇入に関する「条約書」草案 (1870)

胸像製作 渡辺長男作の石膏原型の寄贈を受け、ブロンズ像を製作

ロ. 展示事業

(イ) 企画展 (今秋・来春) の実施および次年度以降の準備と調査研究：

秋季 (10 月～1 月) 「渋沢栄一から妻 千代への手紙 ～あらあら めてたくかしく～」

春季 (4 月～6 月) 開館 40 周年企画展「一点一話」

次年度の準備 渋沢喜作に関する書簡、養育院に関する調査研究

<p>(ロ) 常設展の展示替え、収蔵品展などの開催： 本館 2 階にて館蔵の書画作品より渋沢栄一の書などを展示。 青淵文庫閲覧室にて館蔵の書画作品より渋沢栄一の書を展示。 本館 1 階ギャラリーロトンダにて「友情人形と渋沢家のひな人形」を展示。</p>
<p>(ハ) 常設展示のうち、デジタル・コンテンツの追加： YouTube で紹介動画「渋沢栄一に会える場所 渋沢史料館」の公開開始。 スマホで見るコンテンツ「渋沢栄一のツボ」の運用開始。</p>

<p>ハ. 教育普及事業</p>
<p>(イ) 外部から依頼された出張授業・講座への対応を行う： 博物館、大学、その他諸機関・団体など外部から依頼された講演、講座、講義（授業）へ出講（合計 35 件）。</p>
<p>(ロ) 渋沢栄一命日記念企画『青淵忌』の開催： 「渋沢栄一を偲ぶ特別動画 青淵忌」をオンライン配信。 (YouTube 2021 年 11 月 11 日～11 月 30 日)</p>
<p>(ハ) 講座「渋沢栄一の漢詩」の実施： 新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。</p>
<p>(ニ) 重要文化財の「動態保存」の継続： 晩香廬、青淵文庫の公開を継続。晩香廬の暖炉煙道調査、シロアリ被害状況の調査、補修、青淵文庫の屋根清掃と点検などを実施。</p>

<p>ニ. 図書刊行事業</p>
<p>(イ) 『渋沢史料館年報』の編集・刊行： 『渋沢史料館年報』2018 年度版および 2019 年度版を刊行。</p>
<p>(ロ) 渋沢栄一漢詩訳注本の制作： 制作、刊行に向けて準備を進めたが、原稿調整が遅延。</p>
<p>(ハ) 当館での配布物やガイドブックの制作： 秋季企画展の解説パンフレット、「史料館パンフレット」（英語版）、「ディスカバリーシート」（晩香廬、青淵文庫紹介）などを制作。</p>
<p>(ニ) 『渋沢研究』の刊行 『渋沢研究』第 34 号（2022 年 1 月）を刊行。</p>

ホ. 調査研究事業

- (イ) 『徳川慶喜公伝』調査研究、渋沢栄一漢詩訳注制作など：
『徳川慶喜公伝』の編纂過程及び収集資料について調査を継続した。
渋沢栄一漢詩訳注制作につき、外部研究者に委託し、訳文及び注釈を作成。
- (ロ) 写真資料の貸出に伴う電子対応の検討：
過去の貸出状況の整理と今後の貸出方法についての検討作業を行った。
- (ハ) 調査・研究活動を軸にして博物館活動を充実：
各学芸員が渋沢栄一や晩香廬・青淵文庫などをテーマに調査研究を継続。また外部からの執筆依頼に対応した（合計 17 件）。当財団機関誌『青淵』に活動内容を紹介。
- (ニ) 他の博物館等を視察し、展示手法、施設運営、博物館活動の全体を学ぶ：
渋沢栄一をテーマにした他館の企画展を視察。特色のある展示や運営を行っている松戸市戸定歴史館や自由学園明日館で、人物や近代建築を紹介する方法等を学んだ。

ヘ. 史料館運営

- (イ) 来館者に安心して見学いただける体制整備：
感染症対策を徹底するとともに、2021 年 4 月より警備員を配置。開館方法については 1 か月ごとに検討を行い、12 月まではウェブサイトからの事前予約制とし、受付方法も改善を重ねながら運営した。。2022 年 1 月以降は、事前予約制を解除し、館内滞在人数を密にならないよう管理し、予約なしで入館して頂いている。感染者やクラスターの発生などは無く、来館者が安心して見学できる環境を整え運営した。
- (ロ) 渋沢史料館の PR。渋沢栄一をはじめ渋沢史料館の活動を広域に周知広報、HP での事前予約システムの継続など：
コロナ禍のなか、春季企画展の案内状を財団や地元の関係者等に発信するなど、できる範囲内で当館周知に努めた。ウェブサイトからの事前予約制を 2021 年 12 月まで継続した。
- (ハ) 史料館資料の充実：
寄贈品：「増田明六旧蔵資料」、渋沢敦子旧蔵 箏（附属品共）など計 21 件
購入資料：「渋沢栄一古希記念牌」、「東京慈恵会書類一括」（昭和 3 年）など計 10 件
購入図書：『萬象録～高橋箏庵日記 還暦後記～』など、計 11 件
栄一関係記事掲載の新聞・雑誌記事の収集も行った。

(ニ) 「青淵商店」の充実。オリジナルグッズを充実させること：
秋季企画展の解説パンフレットおよび関連する「一筆箋・ボールペンセット」、また、カレンダー（2022年）、その他オリジナルグッズなどの制作・販売を行った。

ト. その他

(イ) 国指定重要文化財 晩香廬と青淵文庫の内部公開：
晩香廬の暖炉の火入れを試験的に実施した。
青淵文庫では、コロナ禍の中、使用を中止していたデジタルコンテンツの使用を再開。

3. 情報資源グループ

事業内容（情報資源センター）

イ. 各種情報資源の開発

(イ) 社史プロジェクト

A. 渋沢社史データベース（SSD）／変遷図の定期更新・データ追加：

(A) 「渋沢社史データベース（SSD）」

- 1) 更新：データ追加 17,699 件、既存データ修正 1,968 件ほか
- 2) 利用状況（4/1-3/31）：セッション数 537,406（前年同期比 102%）、ユーザー数 471,126（同 103%）、ページビュー数 2,402,739（同 97%）、世界 136 カ国から利用
- 3) 情報発信：社史紹介 6 件（ブログ）

(B) 「渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図」

- 1) 更新：10 図追加、改訂 16 図ほか公開、既掲載変遷図の改訂等
- 2) 利用状況（4/1-3/31）：セッション数 103,325（前年同期比 123%）、ユーザー数 90,894（同 125%）、ページビュー数 227,180（同 102%）、世界 56 カ国から利用
- 3) 情報発信：団体史紹介 6 件（ブログ）

B. 企業史料プロジェクト：

(A) メールマガジン「ビジネス・アーカイブズ通信（BA 通信）」配信・Web 掲載：4 件（3/31 現在、購読者 1,103 名。前年同期比 102%）

(B) 情報発信（記事執筆ほか）：

- 1) 「世界のビジネス・アーカイブズ」『デジタルアーカイブ・ベシックス.5 新しい産業創造へ』（勉誠出版, 2021.05）掲載
- 2) 「Overview of Business Archives in Japan」『SBA Business Archives in International Comparison』（3rd Edition）（国際アーカイブズ評議会, 2021.08）掲載
- 3) 第 9 回ビジネスアーカイブの日オンラインシンポジウム（11/6、企業史料協議会）モデレータ、基調講演（『企業と史料』第 16 集掲載）

(C) Web コンテンツ「実業史リンク集（Shashi Links）」：日本語ページ、英語ページ改訂

(ロ) 実業史錦絵プロジェクト

実業史錦絵および渋沢栄一関連絵葉書の蒐集・整理・情報資源化：

(A) 「実業史錦絵絵引」：利用実態把握のためアクセス解析ツール「Google アナリティクス」設置

(ハ) 渋沢関係情報資源の開発

【重点事項】

A. デジタル版『渋沢栄一伝記資料』別巻公開開始、利便性向上、著作権処理：

- (A) 著作権者等調査結果を栄一関連情報データベース（後述 D）に反映記録
- (B) 本編：引用資料公開件数 390 件増加ほか
- (C) 別巻：

- 1) 令和 2 (2020) 年度国立歴史民俗博物館総合資料学奨励研究「TEI を用いた『渋沢栄一伝記資料』テキストデータの再構築と活用」の研究成果として「渋沢栄一ダイアリー」(別巻第 1、第 2)を 2021 年 4 月に公開(テキストとページ画像提供、データ整備・公開環境整備等でサポート)、JADH2021 で研究成果発表(9/8)、雑誌等で紹介
- 2) 令和 3 (2021) 年度 国立歴史民俗博物館総合資料学奨励研究「市民参加型プラットフォームによる写真資料のデータ構築と活用」の研究成果として「渋沢栄一フォトグラフ」(別巻第 10)を 2022 年 3 月に公開(テキストとページ画像および関連基礎データ作成・提供、研究に参加)、「じんもんこん 2021」(12/11)等で研究成果発表、新聞雑誌等で紹介

【重点事項】

B. 渋沢栄一関連コンテンツ作成・更新・維持：

(A) Web 上の情報発信

- 1) デジタル版『論語と算盤』：本文および関連テキスト作成、出典調査、東亜堂書房版と忠誠堂版の比較作業、所蔵資料(再販本)のデジタル撮影準備ほか
- 2) 「曾孫が語る渋沢栄一」：「岩崎弥太郎と渋沢栄一」「歴史的視野の中の渋沢栄一」追加
- 3) ブログ：「栄一関連文献」4 件追加、「新紙幣の肖像(2019 年 4 月 9 日発表)に関する報道などから」(期中 49 件)ほか

(B) 「わがまちの渋沢栄一」：

- 1) 『青淵』記事執筆 4 件
- 2) ウェブサイト版「わがまちの渋沢栄一」公開、3 件掲載

(C) 渋沢栄一・実業史関連記事執筆 20 件

(D) 情報資源センター・ブログ「情報の扉の、そのまた向こう」更新日(67 日)

(E) 「渋沢栄一関連文献」新着リスト 860 件掲載

(F) レファレンス(問い合わせ)回答(113 件)、ウェブサイト更新ほか

C. 渋沢栄一関係情報の国際的な発信の充実・強化：

(A) 『渋沢栄一伝記資料』英訳網文：第 5～7 巻公開ほか

D. 渋沢栄一関連情報データベースの更新・整備：

(A) データ調査・著者確認、人物データ 67 人追加(のべ 3,573 人)

ロ. 実業史研究基盤整備

(イ) 実業史研究基盤整備

A. 図書資料購入・整理・保存、書庫環境整備、調査・研究用データベース購読など：

- (A) 資料収集(購入等) 269 点、資料整理 813 点、保存対策(保存箱、修理製本)
- (B) 収蔵庫・書庫環境改善プロジェクト参加
- (C) 商用データベース契約 3 件

【重点事項】

- B. 機関リポジトリ開設、財団刊行物の情報資源化、記事索引作成など：
 - (A) JAIRO Cloud (リポジトリ公開システム) 利用承認・環境設定ほか
 - (B) 「財団刊行物一覧」Web 掲載 5 件、『渋沢史料館年報』『青淵』デジタル化・財団内公開
 - (C) 『青淵』『竜門雑誌』記事索引作成、データ提供 (雑誌記事索引集成データベース「ざっさくプラス」)
 - (D) GitHub に「渋沢栄一記念財団デジタル・ラボ」開設
- C. 「情報プラットフォーム (旧・渋沢栄一情報資源専用プラットフォーム)」
 - (A) SSL を無料の Let's Encrypt へ切り替え (デジタル版『伝記資料』などプラットフォーム上のデジタルアーカイブ全てに適用) ほか
- (ロ) 国際協力活動、ネットワーク構築
 - A. 海外普及推進準備：
 - (A) EAJRS 2021 (第 31 回日本資料専門家欧州協会 年次大会) で発表「日本語資料をつなぐ『渋沢栄一伝記資料』の活用方法を探る：TEI エンコーディングの試み」(9/14)
 - B. ネットワーク構築 (外部連携)：
 - (A) S×UKILAM 連携「多様な資料の教材化ワークショップ」第 2 回(11/6)、第 3 回 (3/21) 参加
 - (B) 第 438 回機振協セミナー (6/22)、専門図書館協議会「Zoom で繋がる専門図書館」(11/25) で発表
 - (C) ジャパンサーチ連携：デジタル版「実験論語処世談」、「渋沢栄一 関連会社名・団体名変遷図」
 - (D) NHK 制作局 (大河ドラマ)：『実業家処世訓』(博文館, 1916) 資料撮影協力
 - (E) 北区立中央図書館：変遷図ポスター貸出・展示 (2021/12 まで)
 - (F) 帝国データバンク：変遷図掲載データ提供
 - C. ネットワーク構築 (財団広報連携)：
 - (A) 順天中学校・高等学校「Global Week」出向授業「渋沢栄一と東京北郊地域：デジタルアーカイブで調べて考える」(11/10)
 - (B) 財団 Facebook ページでのデジタルアーカイブ紹介
 - (C) Google Ad Grants 協力
 - (D) デジタルアーカイブ広報「見つけよう、「渋沢栄一」。」継続
- (ハ) 環境整備 教育訓練費、備品等購入、諸会費、PC 関連、ウェブページ制作など：
 - A. 専門図書館協議会全国研究集会などシンポジウム、セミナー聴講
 - B. 関連団体参加：専門図書館協議会、デジタルアーカイブ学会、国際アーカイブズ評議会、TEI コンソーシアム
 - C. 「情報資源センターだより」更新ほか

ハ. 協力事業

- (イ) 渋沢敬三 50 年記念事業 ウェブサイト「渋沢敬三アーカイブ」維持・管理：
 - (A) 情報プラットフォーム上での運用継続中

4. 総務・渉外グループ

(1) 支部の状況 (2022 年 3 月末現在 16 支部)

京 都	仙 台	山 形	野 田	盛 岡	秋 田	酒 田
宇都宮	香 取	氷 見	岡 谷	小 諸	海 匝	茨 城
白 河	深 谷					

※ 網掛けされた支部は維持会員の会費徴収事務を代行している

(2) 維持会員数・会費収入の推移 (過去 3 年)

(単位：人数、社数、口数は 1、会費収入は千円)

年度末	個人会員		団体会員			会費収入 合 計
	人 数	会費収入	社 数	口 数	会費収入	
2019	1,365	6,553	248	1,348	13,310	19,863
2020	1,316	6,448	253	1,311	13,160	19,608
2021	1,281	6,308	250	1,289	12,930	19,238

(3) 寿杖

2021 年度 寿杖会員：5 名

(4) 講演会開催

イ. 支部講演会

支部名	講演会開催日	講演内容
秋 田	2021.11.25	テーマ: 2022 年の秋田の経済展望 講師: 日本銀行 秋田支店支店長 真鍋 隆 氏

ロ. 提携講演会 (提携先: みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社)

年 度	東京・関東会場		大阪・関西会場		合 計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
2019	11 回	227 名	10 回	25 名	21 回	252 名
2020	0 回	0 名	0 回	0 名	0 回	0 名
2021	0 回	0 名	0 回	0 名	0 回	0 名

(5) 機関誌『青淵』の発行

2021 年 5 月号 (866 号) ~2022 年 4 月号 (877 号) : 発行部数 : 3,300 部/月

(6) 関連事業

イ. 第 38 回 渋沢クロードル賞

(主催：日仏会館・読売新聞社、協賛：帝京大学・渋沢栄一記念財団)

本賞（日本側）

中村 督 （南山大学国際教養学部 准教授）

『言論と経営 戦後フランス社会における「知識人の雑誌」』
(名古屋大学出版会、2021 年)

奨励賞（日本側）

淵田 仁 （城西大学現代政策学部 助教）

『ルソーと方法』 （法政大学出版局、2019 年）

本賞（フランス側）

セザール・カステルビ

「日本の新聞記者と新聞社—変化する職業的モデルにおけるキャリアと
仕事の社会学的分析」 （博士論文）

本賞（フランス側）

エドゥアール・レリッソン

「神道の軌道と日本の満洲の成立—宗教的な空間化、帝国の拡大、
近代神道の成立」 （博士論文）

ロ. 第 20 回 渋沢栄一賞（主催：埼玉県・深谷市・渋沢栄一記念財団）

受賞者

伊藤 雅俊 氏 （株式会社セブン&アイ・ホールディングス 名誉会長）

大山 健太郎 氏 （アイリスオーヤマ株式会社 代表取締役会長）

鈴木 修 氏 （スズキ株式会社 相談役）

5. 事業報告の附属明細書

2021 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。